

塩分吸着剤による塩害対策工法

SSI工法[®]

Suppressing Salt Injury Method

国土交通省 NETIS 登録技術
N-SSI 工法、KK-100009-V



JRSE 株式会社 ジェイアール総研エンジニアリング

本社

〒185-0034 東京都国分寺市光町 1-39-23
TEL 042-572-9530 / FAX 042-572-9560

SSI 工法推進室

〒185-0034 東京都国分寺市光町 2-8-38
TEL 042-501-2605 / FAX 042-501-2838

■お問い合わせ

発行 2016年7月

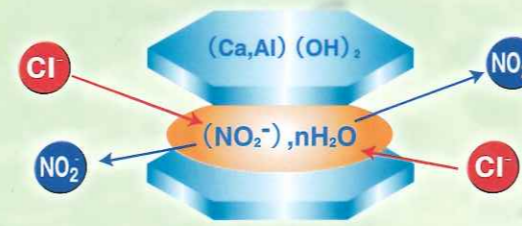
基本設計 公益財団法人鉄道総合技術研究所
東日本高速道路株式会社
中日本高速道路株式会社
西日本高速道路株式会社

コンクリート構造物の 抜本的塩害対策

SSI工法は、(財)鉄道総合技術研究所と旧日本道路公団試験研究所との共同開発による塩害抑止工法です。コンクリート中の塩分に直接作用する「塩分吸着剤」を活用して、他の防錆工法では実現できない下記の特長により、抜本的かつ長期的に塩害を抑止します。

塩分吸着のメカニズム

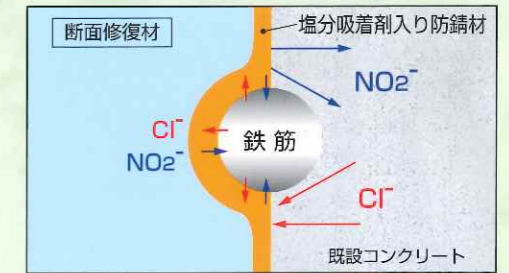
塩分吸着剤は正 (+) に帯電させた層状構造を持ち、塩化物イオン (Cl-) を吸着し、予め保持させた亜硝酸イオン (NO₂⁻) を放出します。



【(社)発明協会平成21年度「発明賞」受賞技術】

塩分吸着剤による鉄筋腐食防止のメカニズム

SSI工法が従来の工法と決定的に異なるのは、鉄筋およびその周辺の塩分を低減し、鉄筋の腐食を長期的に抑止することです。

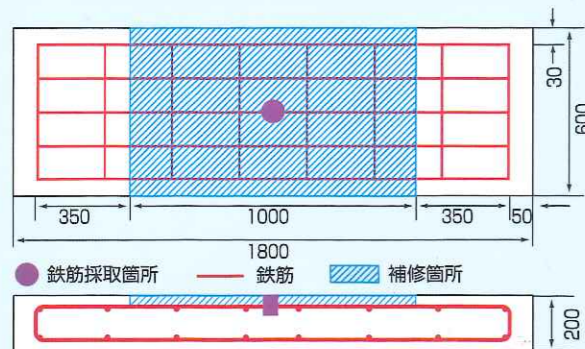


SSI工法の3大特長

1 鉄筋の錆は、ケレンによって完全に除去することは不可能です。鉄筋表面の残存錆層に存在する塩分を吸着し、錆の進行を抑止します。

長期暴露試験と鉄筋腐食抑止効果

スラブを模擬した大型供試体を海塩環境に暴露し、腐食した鉄筋について、一般防錆材と塩分吸着剤を含む防錆材との比較試験を行いました。3年経過後に鉄筋の残存錆の状況を分析した結果、塩分吸着剤の作用が明らかになりました。



大型供試体配筋図 (補修前塩化物イオン量 4kg/m²)



暴露試験状況 (沖縄県)

2 塩分吸着剤を含む防錆材は、鉄筋表面やその周辺のコンクリート躯体中の塩分を低減し、コンクリートの品質を改善します。

SSI工法の施工と防錆環境化

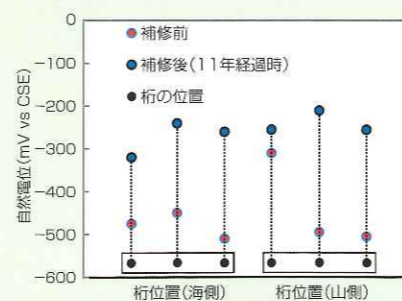
飛来塩分の影響で鉄筋腐食が発生した海岸沿いの橋梁の桁 (写真1) 及び、土中から吸い上げた塩分の影響で鉄筋腐食が発生した海岸に近い高架橋の橋脚下部 (写真2) を、SSI工法で補修しました。施工後、補正自然電位を追跡調査した結果、経年とともに腐食環境から防錆環境へ移行し、安定していることが分かりました。



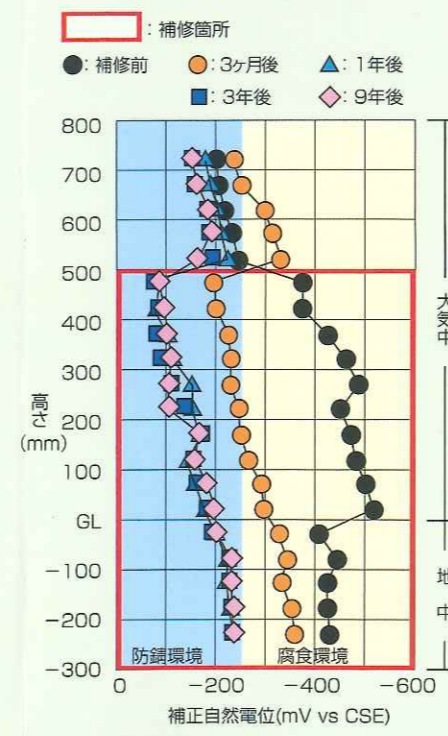
写真2 海岸に近い高架橋外観



写真1 海岸沿いの橋梁外観



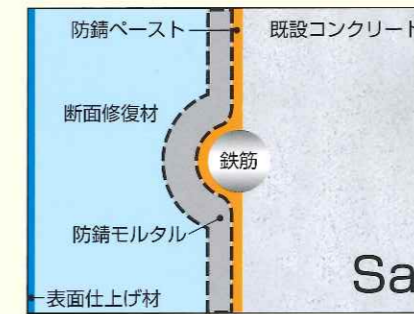
海岸沿いの橋梁における自然電位の変動



海岸に近い高架橋における自然電位の変動

3 SSI工法材料は、コンクリート躯体と同質のポリマーセメント系で構成し、部位や環境を考慮した材料選択により高耐久性を実現します。

施工の基本パターン



半周 施工断面 (Sa)



全周 施工断面 (Sd)

①防錆材の選択 (防錆材の塗布厚は塩分量に応じて設定する)

標準防錆材 (Regular type)

鉄筋位置塩化物イオン量	施工断面	防錆ペースト	防錆モルタル
2kg/m ² 未満	Sa	RJ1	不要
2kg/m ² 以上 5kg/m ² 未満			RJ3
5kg/m ² 以上 10kg/m ² 未満			RJ2
10kg/m ² 以上	Sd	RJ1	不要

高性能防錆材 (Super type)

鉄筋位置塩化物イオン量	施工断面	防錆ペースト	防錆モルタル
10kg/m ² 未満	Sa	SJ1	不要
10kg/m ² 以上	Sd	SJ1	不要

②断面修復材の選択

断面修復材	施工方法	圧縮強度 (σ ₂₈)	付着強度 (σ ₂₈)
耐久モルタル RP100 ※	左官・吹付	30N/mm ² 以上	1.5N/mm ² 以上
遮塩モルタル RP200	左官・吹付	30N/mm ² 以上	1.5N/mm ² 以上
遮塩モルタル RP310	左官・吹付	40N/mm ² 以上	1.5N/mm ² 以上
遮塩モルタル RP310G	充填	40N/mm ² 以上	1.5N/mm ² 以上

※ RP100は塩分吸着剤を配合しない断面修復材であり、内腐害でのみ適用可能

